

## お わ り に

共に学ぶ教育推進モデル事業の第Ⅱ期の取り組みが平成30年度からの3年間にわたり進められてきました。この間、小学校から高等学校までの新しい学習指導要領がすべて揃い、そのなかで通級による指導や特別支援学級における指導内容等が明確に記載されるようになったとともに、特別支援学級に在籍する児童や通級による指導を受ける児童については個別の教育支援計画および個別の指導計画を作成し、効果的に活用することが規定されています。また、指導要領解説において具体的な配慮の例がすべての教科等にわたって示され、さらには、平成30年度からは高等学校における通級による指導も開始されています。これらは、我が国のインクルーシブ教育が謳う「連続性のある多様な学びの場」、「その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組み」を実現していくための基盤を整えるものと言えます。しかしながら、同じく我が国のインクルーシブ教育が謳う「同じ場で共に学ぶことを追求」していくためには、様々な学びの場で生じうる様々な課題を克服し、児童生徒一人ひとりに充実した学びを提供していこうとする実践的取り組みを蓄積し、広く共有していく必要があります。

第Ⅱ期においても、小学校・中学校・高等学校におけるユニバーサルデザイン授業の実現に向けた取り組みや通級による指導の在り方についての検討、学校間連携の在り方、児童生徒のニーズに応じた支援、さらには児童生徒の気持ちに配慮した支援の在り方など、様々なテーマや視点に基づく実践的研究に取り組んでいただきました。これらの成果が県内すべての学校で活用されていくことを期待いたします。

令和3年3月

共に学ぶ教育推進モデル事業連絡会

委員長 野口 和人

(東北大学大学院教育学研究科 教授)